

# 中高一貫だより

<編集・発行>  
えりも地区連携型  
中高一貫教育

## えりも高校から夢を抱き町役場や国公立大学等へ旅立ちました！



地区連携型中高一貫教育推進委員長  
(北海道えりも高等学校長)  
佐藤 健

えりもの中高一貫教育は15年目の活動を終え、新たに連携の形を進化させることができましたと思います。特に吹奏楽の中高合同編成による大会参加で優秀な成績を収めることができたことは、他の連携型の取り組みの中でも画期的なことであり、大いなる希望を発信する取り組みでした。今後もえりもの中高一貫教育が「えりも未来学」の中で、6年間を通したキャリア教育の機能を果たしていけるよう、一層の充実した活動を目指していきたいと考えています。

さて、この3月で中高一貫教育を終え、えりも高校を卒業した25名は、進学15名、就職10名とそれぞれの進路先に旅立っていきました。更なる専門性を求めて大学や短大、専門学校で学ぶ者、町役場や漁協といった形で地域の生活を支える仕事に就いた者、製造や福祉施設の業務で地元を離れて働く者と、この4月からはそれぞれ選んだ道での新たな人生が始まります。

専門性を高める等考えれば、えりもの地を離れることとなります。その後えりもに帰ってこない者も少なからずいることでしょう。現在どの地域も人口減に悩んでいます。しかし、今はネット社会であり、コミュニティはどこにも存在できます。今後益々ネットが浸透する新たな社会「Society5.0」も到来すると言われています。離れていてもえりもに貢献することは可能であり、今後の社会ではそういう意識を持つ子を育てることが重要です。

今後もえりも中学とえりも高校は地域と一体となり、中高一貫教育により志を高め、社会にえりもに貢献できる人材を輩出していきます。地域の皆様のご理解ご支援をよろしくお願いします。

## 学力向上に向けた各教科の取組

えりも中学校とえりも高校間で行われている中高一貫教育推進事業では、「えりもの子」達の学力向上を軸として、学校間の授業交流を柱とする種々の取組を行っております。今年度で15年目の節目を迎え、各教科ごとに中学校と高校の教員間での連携をさらに密にし、様々な取組を行いました。紙面の都合で一部とはなりますが、各教科部会での取組の概要を紹介いたします。

【国語部会】中学から高校までの6年間、同一テキストを用いて、漢字の系統的な指導を行っています。また、今年度は中学3年生の授業において、3か月間、高校の教員が授業を行いました。

【社会科・地歴公民科部会】高校教員の中学校への乗り入れ授業を行い、現代史の内容の振り返りを習熟度別少人数で行いました。また、長期休み明けの課題テストで社会科に対する知識の補強に努めました。

【数学部会】幅広い学力に対応するため中高6名で指導にあたりました。兼務発令で高校教諭がTTとして授業の補助にあたりました。中3生への乗り入れ授業では4展開の習熟度別授業を行いました。その結果、生徒の傾向等を把握することができました。

【理科部会】高校教員による中学校での乗り入れ授業を行いました。きめ細かな指導を行うことで学力の向上を図りました。また、小テストの実施や考查結果の分析など教員同士の情報共有に力を入れています。

【英語部会】今年度も年間を通して高校教員がTTとして週2回、中学校の授業に入りました。また中2生を対象としたEnglish Trialや中3生対象の英検2次対策練習などの補助も行いました。

【保健体育部会】中学1年生から高校3年生まで体力テストを実施し、結果を分析、そして中学校では上体起こし、高校では立ち幅跳びについて、授業内で補強運動等に取り組み、体力向上への意識づけをすることができました。また、中学生が高校に来て、中高中生合同の体育授業(ソフトボールとサッカー)を実施し、教え合いの活動を展開することができました。

## 英検・漢検・数検の取り組みについて

各種検定につきましては、町から検定半額補助制度のご支援をいただき、生徒が積極的に検定にチャレンジするようになってきています。その中で、今年度は難関の英語検定2級に数多くの合格者をだすなど、着実に成果を上げています。大学入試の制度が変わる中、検定の取得は将来の進路決定の上で重要な要素となってきています。各担当の総括は以下の通りです。

### 【漢字検定】

上位級にチャレンジする生徒も増え、今年度も3名の生徒が2級に合格しました。努力をすれば必ず結果が伴う検定なので、たくさん問題を解いて、良い準備をしましょう。

### 【英語検定】

今年度は2級合格者が7名と、昨年度の3名を上回る結果となりました。諦めずに何度もチャレンジし続けて合格を勝ち得た生徒もいます。添削指導等を通して、力を付けて、上位級に挑戦しましょう。

### 【数学検定】

受検者は中学0名、高校3名。合格者1名でした。他検定同様、専用の対策が必要です。生徒自ら本屋に行き、自分に合った参考書を探すことが望まれます。

## 中高一貫6年間の成果

えりも高校進路指導部長 山上智史

今年度卒業した生徒の進路概況は下記の表のとおりです。大学、短大、専門学校に合格した生徒は、主に推薦試験を利用して受験しました。推薦試験に合格した生徒は、各種検定の取得に励むほか、面接練習や志望理由書の作成、小論文を書く練習を何度も行い、本番の受験に臨んでいました。国公立大学に合格した生徒は、センター試験受験後も2次試験対策に向けてしっかりと対策をし、合格を勝ち取りました。自分に合った進学先を決めるためには、低学年の内からオープンキャンパスや進学相談会などに積極的に参加し、学部・学科研究することが重要です。就職希望の生徒は、合同企業説明会などに参加し、企業研究をしていました。履歴書の作成や面接練習にたくさん時間をかけ、志望する企業から内定を得ることができました。

| 国公立大学 | 私立大学 | 短期大学 | 専門学校 | 各種学校 | 公務員 | 民間就職 | 未定 | 合計  |
|-------|------|------|------|------|-----|------|----|-----|
| 2名    | 7名   | 4名   | 1名   | 1名   | 1名  | 8名   | 1名 | 25名 |

### 乗り入れ授業 中高一貫教育の強み

今年度は5教科等で、高校の教員が中学校に赴く「乗り入れ授業」を実施しました。「乗り入れ授業」により、えりも高校の先生方へ親近感をもてるようになり、進学する際の不安を取り除くことができました。

また中高の垣根を取り払い高校へ進学できることは、中高一貫教育の強みでもあります。

さらに、部活動でも一部ですが中高合同で練習を行っております。来年度以降も、さらに連携を深め一貫校としての特色を展開していきたいと考えています。

### 中学生に訊く~中高一貫教育について

連携入試が無事終わりました。えりも中学校の生徒が、中高一貫教育を実際に体験してどのようなことを感じたのか、生徒の声をまとめてみました。

- ・進路講話を聴いて憧れの気持ちを持つことが大切だということを見ることができました。
- ・中学生面談で、面接の前に質問に対応する準備をしておくことが大事だとわかりました。

中高一貫教育の様々な取り組みを通して、将来のことを考えたり、将来に向けての準備をしたりすることの大切さを学ぶことができました。